

16 自然景観に配慮しつつ長大な崩壊地を復旧してきた男体山 治山事業

栃木県（日光市）



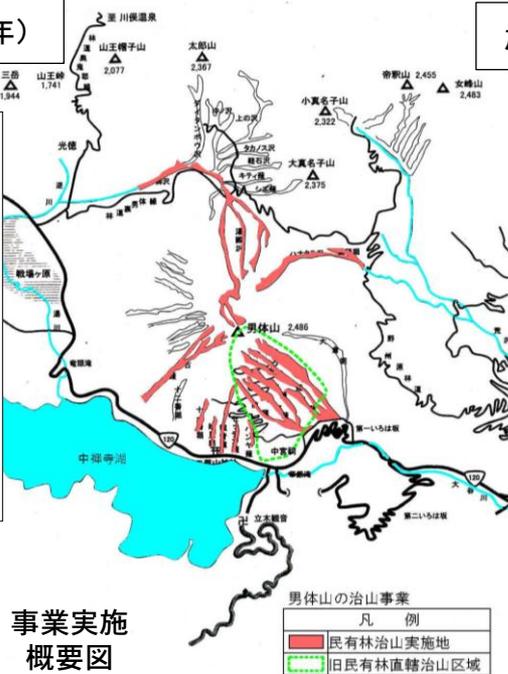
荒廃状況（昭和41年）



施工状況（昭和45年頃）



現在の状況（観音薙）



○所在場所

栃木県日光市中宮祠字二荒山 ほか

○施設・工法の概要

谷止工等を階段状に配置し、斜面傾斜の緩和とともに、「薙（なぎ）」の中に堆積した土砂の移動を抑止するため、流路工や護岸工を配置し、広葉樹などの植栽や伏工等による緑化工を施工

○解説

男体山は、溶岩と火山碎屑物が交互に堆積して形成された成層火山で、幼年期から壮年期への変遷過程にあつて、山頂より四方にV字形の侵食谷が形成されています。これら侵食谷は、「薙」や「堀」と呼ばれ、岩塊が崩落を繰り返す急勾配の崩壊地となっています。

施工は困難を極め、台風等の気象災害に見舞われながらも着実に事業を進め、現在では流下する土砂の発生量も抑制され、植栽木も順調な生育を見せており、年々緑が色濃くなっています。

下部の二荒山神社や中宮祠地区を保全するばかりでなく、信仰の山「男体山」の登山者の安全も守っています。